



NPO法人 活きる

# 窓 開けて

## この1年を振り返って

副理事長 宮脇 貞夫

平成16年の8月にNPO法人の設立準備会を結成し、平成17年2月28日に「地域に活きたい障害者の会」からの意志を受け継ぎ、NPO法人「活きる」に生まれ変わって10ヶ月が経ちました。

その間、会員の皆様によるご協力のお陰で、思った以上の成果があり、NPO法人「活きる」の活動に市民権が与えられたと思います。

ボランティア団体からNPO法人に変わって、以前の活動と比べベシビアで大変なことも多かったと思いますが、今後も、一人でも多くの障害を持っている方やそのご家族の笑顔が増えるように、私たち会員一同は一緒に楽しく活動していきたいと思えます。

あまり目に見えないとは思いますが、確実に私たちの努力は報われているはずで。

平成17年は、NPO法人「活きる」の活動を多くの市民に知ってもらい理解していただき、そして、一緒に活動してくれる仲間を集めるためのPR活動を主に行ってきました。

色々なイベントに参加したり、講習会を開催したり、コンサートも大成功に終わりました。その中でも、リハビリスポーツは会員同士の交流を深めるとともに、治療的リハビリでは味わえない楽しさとやる気を持ってもらえたと思っています。これからも継続的に開催し、より多くの障害をもった方に参加していただき、リハビリ効果を期待しながら社会参加のきっかけにしていきたいと思います。

来年度は、新たな事業展開も計画しています。それに従って、より多くの協力者を募集し、少しでも役割を分担し、且つ、法人としての機能を充実していきたいと思えます。

新しい事業で収益を得ることで、出来るだけボランティアに対しての報酬を支払えるようになり、責任あるボランティアの意識も向上させていきたいと思えます。

そして、出来るだけ早く、障害者が収入を得て自立できる環境、また、大きな障害があっても安心して暮らせる環境を作っていけるように、地域の方々のご協力も得ながら、みんなでがんばっていきましょう。



## 勝山君おめでとう!



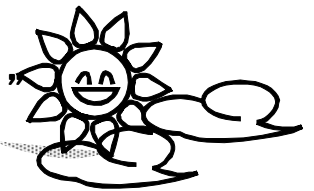
今回24時間テレビから電動車椅子を贈呈されてとてもうれしいです。当たるとは思っていなかったので、テレビ局から知らせがあった時はとてもびっくりしました。

贈呈式に行った時、インタビューを受け実際に試乗しました。音も静かでスピードも速く、とても快適でした。手元に届くのが待ちどろしいかったです。届いて駅周辺を走ってみて結構うまく操作ができ大満足でした。又今迄の車椅子との違いがわかりました。例えば段差です。今迄ののだとちょっとした段差でも車輪が空転してしまいましたが、今度の車椅子は5cmの段差は乗り越えられます。

僕にとって車椅子をいただけただけで行動範囲が広がる事ができ沢山の所へ行きたいです。

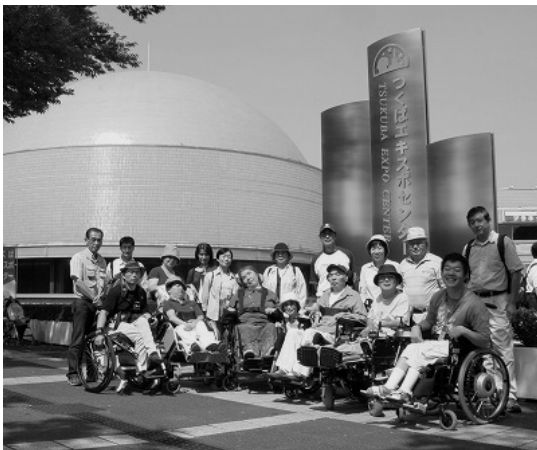


## ◆◇9/18 秋の遠足 “電車に乗って出かけよう！”



守谷駅集合 ⇒ つくばエクスプレス乗車 ⇒ つくば駅 ⇒  
つくばエキスポセンター見学 ⇒ 公園散策 ⇒ ランチ ⇒ 散策 ⇒ TXで守谷駅へ

この遠足は車椅子で電車に乗ることが目的。車椅子ごとエスカレーターに乗ったり、レストランで食事をしたり、この日もいろいろな事を体験することができました。



エキスポセンターの前にて・・・ハイ チーズ

9月18日にNPO法人“生きる”でつくばエキスポセンターに行きました。新しく出来たつくばエクスプレスに乗れるので期待と興奮でいっぱいでした。守谷駅もきれいで、電車も車内は広く、音も静かで、周りの景色も良く快適でした。

つくばではエキスポセンターを見学しました。プラネタリウムは工事中でしたが、他のアトラクションが体験できておもしろかったです。

今回エクスプレスに乗れたこと、NPOのみなさんと楽しく行くことが出来て良かったです。又どこかにみんなで行きたいです。

H. K

## ◆◇第2回リハビリスポーツ開催◇◇

10月30日、取手市福祉交流センターにて第2回リハビリスポーツを開催しました  
くりハビリスポーツに参加して>

ここでのリハビリスポーツは、学生時代でいう「サークル活動」のようなものだなあと感じています。学生時代の「サークル活動」は、その活動をしたい仲間が集まります。しかし、それだけが目的ではなく、仲間同士が悩みを相談しあったり、物事に共感しあったりするのが楽しみで集まっているところもあると思います。

リハビリスポーツを2回開催し、スポーツ（遊び？）が初対面の人でもその輪に入ることを後押ししてくれ、人との関りが自然に行えるようになっていると実感しています。遊びとなると、大人も子供と変わらず、無邪気に真剣になりますから、すぐ仲良くなれるんですよね。実際に、メールアドレスを交換し友達になった方もいます。

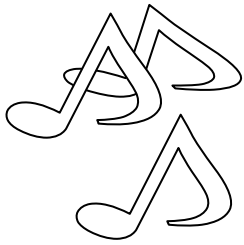
病院のリハビリテーションとは違い、ちょっと気の抜けたリハビリスポーツですが、人との関わり、社会との関わりを大切に今後も活動していきたいと思っています。(M. I)



吹き矢



ビーチバレーボール



# ♪11/26 津久井克行 ハッピーコンサート♪



## 「津久井克行さん、ありがとう」



あらき はやと

♪ ナインティナインスリー ♪ 恋をした一ノ一君に夢中 ♪  
 三十路半ばの僕たちの脳裏に浮かぶのは先ずこの言葉。聞きなれたメロディ・・・その向こう側に、  
 過ぎるくらいに控え目な津久井克行さんがいました。  
 空前のヒット曲を主軸にしてトークが進み、かの名曲もさることながら現在進行形の津久井克行さん  
 の歌が素敵でした。「～僕はメッセージ性の強い歌は歌えません。ただこうして、その時々  
 の想いを歌にするばかりです～」確かそんな風なことを話して下さったと記憶しています。もし、も  
 う一度取手に来てくださるならば今度は津久井さんの「今」をもっと知りたいです。  
 実行委員会形式をとり、自分たちの力で何が出来るかと、可能性にトライしたのが今回のコンサ  
 ート。ならば黒字を出せた今回は大成功ではないでしょうか。実は津久井さんも司会のKUROKO  
 さんもそろばん勘定から出た訳でなく、会員との日ごろの交流から生まれたつながり。ならば次回  
 はこの路線を前面に打ち出して「取手1993津久井克行ふるさと応援団(仮笑!)」などとして、  
 これからに繋がるといいですよ。利根川大花火大会のオープニングセレモニーなんていかがでし  
 ょうか?皆さん。



津久井さんコンサート



津久井さん&KUROKOさんのトーク



沢山の方が来てくださいました♪

## ◆◆10/22 取手市健康福祉まつり参加 ◆◆

10月22日(土)、グリーンスポーツセンター、保健センター、緑寿荘を会場に開催された「取  
 手市健康福祉まつり」に参加、「活きる」では、自助具の展示とオリジナルカレンダーの販売をしま  
 した。この日はあいにくのお天気でしたが沢山の方が会場を訪れてくださいました。



オリジナルカレンダー A3サイズ



バザー会場

オリジナルカレンダー CDサイズ・FDサイズ



## ◆◇有償福祉移送サービス運営・技術講習会◆◇

有償福祉移送サービスの運営事業者とボランティアドライバーを対象に、移送サービス運営・技術講習会（主催＝茨城県福祉移送サービス団体連絡会＝以下連絡会、共催＝NPO法人ふじしろ福祉の会＝理事長遠藤俊夫、NPO法人活きる＝理事長染野和成、あいおい損害保険取手支店）が、平成17年10月8日、9日の二日間にかけて、茨城県取手市福祉交流センターにて、約100人の参加者と茨城県庁の担当部署の担当者を招いて開催された。講習会の内容は、事業の運営とリスクマネジメントについてが8日に、利用者の理解、接遇、運転の心構えについてと警察による安全講習が9日の午前中に講義され、午後には乗降介助の実技講習と実際に公道に出て参加者の運転技術を評価した。

この講習会は、平成18年度より施行される道路運送法80条のガイドラインに基づき、市町村で構成される運営協議会で設定される普通2種免許取得に相当する講習会として位置づけられるものであり、利用者がより安全に移動できる技術と心構えを運転者に習得させることを目的としている。

有償福祉移送サービスとは、公共交通機関を利用することが困難な高齢者や障害者の外出を支援するものであり、必要に迫られて市民団体から自然発生的に生まれたサービスである。しかし、移動困難者の定義があいまいだったり、安全が危惧されることやタクシー業界との摩擦を避けるために、一定の基準を設け、運営協議会を経て運輸支局長の許可を得た社会福祉法人、NPO法人、または地方公共団体が自ら主宰するボランティア組織が運営できるようなシステムになる。

現在、移送サービスを展開しているボランティア団体は、慢性的な資金不足である。そこで、藤代地区ですでに高齢者の移送サービスを実施しているふじしろ福祉の会と取手地区で身体障害者の社会参加を支援し来年度のサービス展開を計画しているNPO法人活きるが、より安価に且つ安全を確保できる講習会を発案し、県の連絡会と協議し、県内でサービス展開している団体、全国の移送団体を支援している全国移動ネットの協力を得て、講習会を実施するに至った。

講習会当日はあいにくの天候であったが、9日の午後に予定されていた屋外での乗降介助の実習と運転技術講習の時には雨も上がり、心地よい中で行われた。

参加者は、あらためて移送サービスを運営するに当たって、利用者の安全確保と外出支援に対する心構えを実感し、この講習会が茨城県の標準の講習会として認められ、継続されることを強く訴えていた。

NPO法人活きる・宮脇貞夫



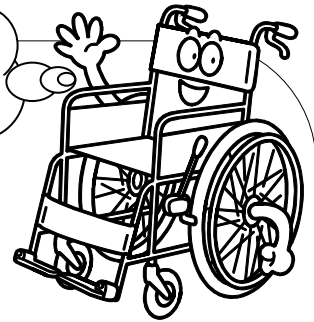
## 「障害者自立支援法」??・part 2

国の考えている「改革のねらい」第二弾！

= 「こじつけ」？

【障害者がもっと「働ける社会」に】

勉強しよう！



**解説**・・・一般就労へ移行することを目的とした事業を創設するなど、働く意欲と能力のある障害者が企業等で働けるよう、福祉側から支援する。

**独り言**・・・福祉とは無縁の方がこのねらいを聞いたなら「そうだ。その通り！」となるかもしれませんが、フト回りを見ていただければわかることですが、ちょっと大きなスーパーとかに買い物に行って障害を持った方が仕事をしているのを見たことがありますか？確かに仕事があれば本人の収入になるし、国も税収があがるし一石何鳥にもなるのに現実は・・・。その現実を「ねらい」にするのはどうなのかな？今回の「ねらい」も国の理想？と現実のギャップが冥王星ほど離れているような気がするのですが・・・。

雇う側の気持ちもわからないわけではないのですが、国の施策もどうなのかな？

(優しいキューピット)

## デングル日記 No. 2

×月×日

札幌に住む友人の結婚式に出席するため、1泊2日の強行軍で札幌へ行く。羽田へは支援費の中の移動介護を利用してヘルパーさんに付いていってもらう。それにしても車椅子利用者にとって飛行機への搭乗手続きが面倒だ。

「バッテリーを下ろして」だの「使用機材が小さいから分解してください」と言われることが多すぎる。航空会社によっては「アシスタントデスク」なるものがあるが一度、登録するとすんなり行くらしいが自分はその会社だけじゃないので登録はしていない。

新千歳空港には昼過ぎに到着し、函館から来る友人、その近辺に住む友人らと車で札幌市内の式場へ向かう。

今日の新郎新婦は自分の親しい友人。特に新婦は取手から自分の介護人として連れて行った人。新郎はバイクミーティングの仲間でごいつも完璧に自分の介護をこなせるやつ。

「人前結婚式」という形式のもので仲人を立てないらしい。だからということもないが、おかげで披露宴のしょっぱな新郎新婦のご紹介、ってものを喋らされた。

席に戻ればそこは自分も良く知っている友人ばかり。新郎新婦を肴に大いに楽しむ。

二次会には8時から突入。中華料理でこの次元でかなり酔ってはいる。しかし、披露宴の緊張も解け、ビールが体の中に入っていくのが心地よい。

夜11時、残った仲間数人このホテル最上階のバーへ繰り出す。夜景が綺麗だ。

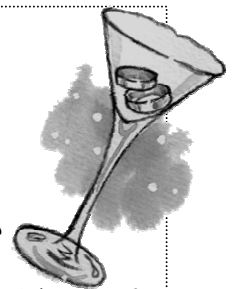
ま、函館山からの夜景にはかなわないが。

深夜1時、ようやく解散、部屋に戻る。ふと廊下から外を見ると吹雪になっている。しかもビル風からか、下からも雪が舞っている。



披露宴でのスピーチ

ちょっと幻想的な風景で思わず立ち止まり、近くの灰皿を引き寄せ一服。翌日は完璧な二日酔い。それでも頭痛がなかったのは幸い。昼ごろにやはり友人のやっているすし屋で昼食をすませ、空港まで送ってもらい、少しの土産を購入し機中の人となる。1泊2日はこの歳で少しきついが。帰りの機内で爆睡だったことは言うまでもない。



## 助成金・寄付

ありがとうございました!



- 木下財団助成金 12万円  
カラーレーザープリンター購入資金
- 社協助成金 5万円  
第2回リハビリスポーツ運営資金
- カタクラショッピングセンター寄付 1万円
- 歳末助け合い事業配分助成金 3万5千円  
第3回リハビリスポーツ運営資金

## ＜今後の予定とお知らせ＞

### ■第3回リハビリスポーツ

1月8日(日)10時～15時

取手福祉交流センター多目的ホール

### ■移送サービスの予定

11月に取手市にも運営協議会が設立され、第1回目の会議がありました。その中で、おおよそのガイドラインが設定され、それに従って申請書を作成しています。

2月に第2回目の会議が招集され、そこで認証される予定です。我われNPO法人「生きる」は、当面、ボランティアドライバーの所有するセダンによる移送サービスを予定しています。重度の方の移送は、デリカのリフト車か社協さん、又は市のリフト車を借りて運営する予定です。この外出支援事業を展開することによって、今まで外出することが困難であった障害者の社会参加を促すことになり、新しい楽しみを得ることも出来るはずです。

## オススメの一冊



『ナチュラル 障害はあたしのブランド』

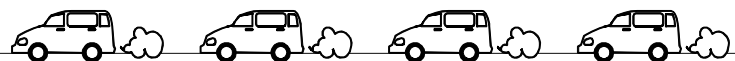
・すがや あゆみ：文

・たちばな いさぎ：マンガ

・中経出版

昨年の11月、NPO法人「生きる」の設立を目指して「地域に活きたい障害者の会」と、有志のメンバーが協力して開催したのが、すがや あゆみさんをお招きしての講演会でした。「障害はブランド!」のタイトルに、メンバー一同度肝を抜かれ、若さと活気に満ちた講演は、我が街取手の聴衆に十分な刺激となり（そう言えば市長も最後まで聞いてくれました）「生きる」設立に弾みがつきました。

その「すがや あゆみ」さんが、『ナチュラル 障害はあたしのブランド』を出版されました。10万人に一人といわれる重度の障害、先天性多発性関節拘縮症をもちながら、神奈川新聞社でWebクリエイターとして勤務。本書では「挑戦していく気持ちを忘れなかったのは、『障害はブランド』だときがついたから。障害があることは不幸でもないし、不便でも楽しめばいい。おしゃれをたのしむように。」と、自らの生き立ち、生き方を通してさりげなく語りかけてきます。今やテレビでドキュメンタリーが放映されるなど、マルチネットアイドルとして大活躍の「アユちゃん」のすべてがギュッと濃縮されたエッセイ&マンガ自叙伝です。(かわぐち)



NPO法人生きる『窓 開けて』

2005年12月25日発行

発行所 NPO法人 生きる

発行者 染野和成

編集者 宮脇・染野・鈴木・河口・工藤・石浜

連絡先 T/F 0297-78-0516

E-mail npoikuru@infoseek.jp

URL <http://www7a.biglobe.ne.jp/~npoikuru/>

## 編集後記

例年がない厳しい寒さが続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。沢山の行事を盛り込んだ第2号をお届けします。

年明け早々には、第3回リハビリスポーツを予定しております。運動不足解消のためにも、皆様ふるってご参加くださいネ。